

「令和2年度学校目標について」

副校長 小泉 三千代

若葉を渡る風が、爽やかな季節を運んでくれる聖母月を迎えました。
保護者の皆様には、この困難の中、如何お過ごしでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の拡大により特別措置法に基づく緊急事態宣言が4月7日に7都府県に対して発令されました。「手遅れ」、「効果が期待できるのか」というような声は上がったものの、これを受けて一人ひとりが今の生活スタイルを見直し、感染拡大防止のためにできることは何か、と自問自答したのではないのでしょうか。

学校では、新しい教科書とタブレット端末を使い、学習支援の一環として生徒の皆さんの家庭学習が授業形態で進んでいくことを目指し、その環境を徐々に整えることを最優先いたしました。それは、不安な日々を送っている生徒の皆さんが、普段の学校生活の状況までには到底届かなくとも、各教科の担当者との直接的・間接的なやり取りが行えることで、毎日の家庭学習時間が定まり、一日の時間の使い方がより規則正しいものへと誘導され円滑な家庭学習スタイルができたなら幸い、という思いからでございます。そのことで、保護者の皆様には、多くのご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、今年度の学校目標である「自信を持ち誰にでも元気に挨拶できる星美生」について、学校長からの4月の学校通信をご一読いただいたかと存じます。「誰にでも元気に挨拶できる」というフレーズに、私は「江戸しぐさ」を思い起こしました。例えば「傘傾げ：雨や雪の日は傘を外側にすっとなげてお互いに濡れないようにすれ違う」は、よく聞くところです。この挨拶についても「江戸しぐさ」があります。「『おはよう』には『おはよう』」。「江戸しぐさ」は、互角の付き合いが基本で、丁稚が「おはようございます」と言えば大旦那も「おはようございます」と返したそうで、まずは上に立つ者から実践していくものでもあったようです。

生徒の皆さんが「自信をもち誰にでも元気に挨拶できる」ように、先ず私共教職員から気持ちよい挨拶をしていきたいと思えます。また、「自信を持ち」という点が難しい事かと感じますが、気持ち良い挨拶を進めていくと、互いに「お互い様」という感情が芽生え次には「挨拶をしてくれてありがとう」という感謝の気持ちが自然と湧いてきてその結果、「気持ちよく元気に挨拶できる」そのこと自体が、自信へと繋がって行くようにも思われます。

ドン・ボスコは、「思いやりのある言葉をそっとかけてやること、これこそが若者たちの心をつかむ秘訣だ」と仰っています。ドン・ボスコであるからこそできた「秘訣」という考えに止まらず、私共教職員は、サレジアン家族の一員としてドン・ボスコのこの「秘訣」に倣ってまいります。挨拶をきっかけに、その先に見えてくる心の通い合いを通して、私共が生徒の皆さんの心の奥底にあるものに触れ更には、より深い係わりが持てる令和2年度で在りたいと思えます。生徒の皆さんと共にまた、皆様のお力添えを頂きながら心を込めて教育活動を進めてまいります。

保護者の皆様におかれましては、引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。